

教 科	数学	科 目	数学Ⅰ＋数学Ⅱ	学 年	1	類 型	中進
単位数	2＋2	教科書	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）、高等学校 数学Ⅱ（数研出版）				
副教材	アドバンス 改訂版 数学Ⅰ＋A（啓林館）、アドバンス 改訂版 数学Ⅱ＋B（啓林館）						

学習目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 式と証明 式と計算	整式の除法、分数式の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	等式・不等式の証明	等式や不等式を証明することができる。	☐ ☐ ☐
	第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解	複素数の四則演算ができる。	☐ ☐ ☐
	高次方程式	高次方程式の解を因数定理などを用いて求められる。	☐ ☐ ☐
	第3章 図形と方程式 点と直線	線分の内分点、外分点が求められる。	☐ ☐ ☐
		与えられた条件を満たす直線の方程式を求められる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	円	与えられた条件を満たす円の方程式を求められる。	☐ ☐ ☐
	軌跡と領域	円の接線の公式を理解して、それを利用できる。	☐ ☐ ☐
	第4章 三角関数 三角関数	与えられた条件を満たす点の軌跡領域を求められる。	☐ ☐ ☐
		弧度法で表された角の三角関数の値を求められる。	☐ ☐ ☐
	三角関数	三角関数の相互関係を理解し、利用できる。	☐ ☐ ☐
	加法定理	加法定理を利用して、三角関数の値を求められる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	第5章 指数関数と対数関数 指数関数	三角関数の合成を理解する。	☐ ☐ ☐
		指数法則を利用して計算ができる。	☐ ☐ ☐
		指数方程式・不等式を解くことができる。	☐ ☐ ☐
	対数関数	対数の性質に基づいた値の計算ができる。	☐ ☐ ☐
		対数方程式・不等式を解くことができる。	☐ ☐ ☐
	第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数	導関数を利用して、接線を求められる。	☐ ☐ ☐
	関数の値の変化	不定積分・定積分の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	積分法	直線や曲線で囲まれた部分の面積が求められる。	☐ ☐ ☐

学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。
評価方法	考査評価8割、平常評価2割で総合的に評価し、最終的に100点法の評点および5段階で評価する。平常評価は課題の提出状況、小テスト、授業への取り組み等で行う。